

あこがれのたより

10月



発行責任者 堤 敏博

「崇高な人格の育成」

校長 堤 敏博

10月10日に行われた戴帽式でお話いたしました内容の一部を転載することで、私の思いを保護者の皆様にお伝えしたいと思います。

衛生看護科二学年の生徒たちは、看護の道を志し、本校に入学して一年半、日常生活の援助や、注射法の実習、及び、専門科目の理論学習に一生懸命努力を傾けてきました。その皆さんも、いよいよ、病院での実地教育の第一歩を踏み出す、記念すべき日を迎えました。

先ほど、本格的な病院実習に臨む二十五名の皆さんに、戴帽の儀を執り行いました。今、君たちが身に付けている、真っ白で清潔な、ナースキャップやハンカチーフは、身体や心を病む人に対する優しさや謙虚な心、そして、看護の道を表す凛とした姿勢を象徴するものです。戴帽式の記念として、いつまでも皆さんの手もとで大事に保管されることでしょう。

また、皆さんが手にしたその灯（ともしび）は、かつてナイチンゲールが、己のすべてをなげうち、傷ついた兵士たちの看護をしたときの、献身的な精神を伝え続ける「看護の灯（ともしび）」であります。本日の式典は、「おめでとう」という喜びごとだけではなく、「しっかり努めなさい」という意味も込められており、看護の道を目指すみなさんにとっては、生涯忘れることのできない儀式になると確信いたしております。これからの長い人生、様々な困難にぶつかることではありますが、その時には、本日のこの感動と誓いを思い起こし、しっかりと「思い」のもとに突き進んでいただきたいと思ひます。

そこで、みなさんに心に留めて欲しいことを二つ述べたいと思ひます。

一つ目は、「**看護師に必要な素養を身につけ、日々学び続けて欲しい**」ということ です。

ナイチンゲールは、一看護師として、そして、看護学校の校長として、次のような言葉を残しています。「看護は、終わりということのない、つまり、毎日、何かを学び続けても終わることがない、ひとつの分野、ひとつの道です。優れた看護師は、何年仕事を続けていても、毎日、何かを学んでいます。自分の生命（いのち）の最後のときまで、毎日、毎日、学び続けることでしょう。そして、最後は、自分が看護されながら、世話をしてくださる看護師さんの看護を見ながら学ぶでしょう。」学問に対する、いやもっと広く、人間としての求道精神がここにあると思ひます。

二つ目は、「**看護師を目指す者としての使命と誇りを持って欲しい**」ということ です。

昨年七月に百五歳で亡くなられた医師 日野原重明（ひのはら しげあき）先生は「医学とは、サイエンス（科学）の上に成り立っているアート（芸術）だと思ひています。音楽や絵画などのアートは、技術の素晴らしさが、人を感動させるのではなく、そこに秘められた優しさや悲しみ、愛が人々を魅了するのです。医療も同じで、高い技術を駆使したところで、患者さんを、本当の意味で、苦しみから解放してあげられるとは限らないのです。現代の医学でも、治療方法のない病気も多く存在します。でも、そのような人にも、もしも医学がアートなのだと思ひすれば、科学に出る幕がなくなった後も、その人のためにできることに限りはないのです。患者のことを心から思い、笑顔で、優しい言葉をかけること、手を握ったり、さすってあげたりして、話を聞いてあげること、そこには限りがありません。そのことで、痛みや苦痛が、驚くほど和らいだ患者さんの姿を、数限りなく見てきました。だから、音楽や絵画、優れた文学作品と同じように、医療にとっても、人々の心を動かすアートという要素が、最も重要なものだと思ひます。」

とおっしゃっています。知識や技能はもちろん大切ですが、献身的な精神。すなわち「**患者さんを思う心**」が一番大切かもしれません。

今、白衣に身を包んだ皆さんの姿は、とても凛々しく、眩い（まばゆい）ばかりに輝いて見えます。その輝きをいつまでも失うことなく、看護師という誇りある、素晴らしい職業に就くことを目指し、知識・技術の習得はもちろん、**崇高な人格の形成**に向け精進していただきたいと思ひます。

戴帽式における校長式辞の一部を紹介しました。お子様との話題にしていただければ幸いです。

戴帽式 翌日から病院実習へ

10月10日（水）本校メモリアルホールにて、衛生看護科第45回戴帽式を実施しました。

1年次より、戴帽式や翌日から始まる1年間の臨地実習へ向けて看護の学習や実技練習を重ねてきた2年生にとって、ナースキャップとハンカチーフをいただいて看護の道の第一歩を歩み出せたこの式は忘れることのできないものとなりました。

これからの実習では、多くの方々の前で誓った「ナイチンゲール誓詞」を常に意識して、命と真摯に向き合い、責任の重さを自覚し、自らの目指す看護師像へ向けて日々努力していきたいと思えます。そして、これから精一杯実習に取り組む姿を通して、これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを表していきます。お忙しい中参列して頂いた来賓の方々、保護者の皆様には心よりお礼申し上げます。



陸上部 U20全国大会 **女子砲丸投げ全国8位!**

10月19日（金）～21日（日）に愛知県名古屋市で行われた、第34回U20日本陸上競技選手権大会に出場しました。この大会は、大学生を含む20歳以下の日本一を決める大会です。本校からは、3年6組の後藤颯汰（400mH）と里中彩華（砲丸投）が出場し、砲丸投で8位入賞を果たしました。

また、10月11日（木）～13日（土）に大分市で行われた、平成30年度全九州高等学校新人陸上競技大会にも出場しました。この大会は、9月に行われた長崎県新人戦で上位3名のみが出場できる試合です。本校からは9名の選手が出場し、2年6組の平野鈴葉（砲丸投）が3位入賞を果たしました。

今年度を振り返ると、本校の陸上部から日本代表に選出されたり、全国入賞を果たしたり、チームとして陸上競技マガジン（全国版のスポーツ誌）で取り上げてもらったり、昨年の目標であった、「五島」を全国に発信するに近づけたのではないのでしょうか。次年度は、「陸上競技に携わる者の将来、陸上競技から離れた時に、何が残るか（何が残せるか）」を自問自答しながら、人間性にフォーカスして地域から注目されるような部を目指していきますので、これからも応援よろしくをお願いします。

P T A進路講演会・学級懇談会が開催されました

9月25日（火）にP T A進路講演会および学級懇談会が開催されました。

1・2年の保護者を対象に、元長崎県立佐世保北中学校・高等学校長の久原巻二先生に「願いに応える」というテーマで講演をいただきました。

今の子供たちを取り巻く環境の変化や、保護者がどう子供に向き合っていくべきかについてお話をいただきました。

その後、各学級ごとに学級懇談会を実施しました。クラスの現状や今後の指導方針などについて、話がありました。

お忙しい中、足を運んでいただき、ありがとうございました。



センター試験100日前集会 いざ勝負の時期へ

10月11日(木)の3学年PTAとセンター試験100日前集会には、75名もの保護者の方々にご来校いただきありがとうございました。この会でもお伝えしましたように今こそが己を成長させるための辛抱の時です。「己の珠なるべき」を信じ、様々な方法で粘り強く磨いていく、そうすれば必ず光り輝く部分が見えてきます。また当日は、3年2組宮崎好貴さんと3年5組松本愛琉さんが、「決意表明」を述べてくれました。2人が話し終わった後のみんなの温かい拍手の場面は、2人の思いが他の生徒たちの思いと一つになった瞬間でした。さし迫る人生の試練に果敢に挑戦させたいと思います。今後ご家庭と緊密に連絡を取りながら教職員一同で支えてまいりますのでよろしくお願いいたします。



読書感想文コンクール

9月28日(金)に読書感想文コンクールが行われました。今回は特に1年生の力作が目立つ結果となりました。受賞した作品はどれも本を自分に反映させて考察されており、素晴らしい意見を書いているものばかりでした。本には様々なジャンルがあり、知識や語彙を吸収するだけでなく、想像力を育んだり、直感力を鍛えたりすることもできるでしょう。「忙しいから本を読まない」と考えるのではなく、「忙しいからこそ本を読んで自分の力にしていこう」と本を手にとってみてはいかがでしょうか?きっと素晴らしい世界が開けてくるはずです。

賞	タイトル	氏名	本の題名
最優秀賞	後悔しないためには	中村諒香(1-6)	コーヒーが冷めないうちに
優秀賞	かくしごと	宮本紫帆(1-3)	か「」く「」し「」ご「」と「
優秀賞	ムーミンの生き方から学んだこと	堀本多喜(1-1)	ムーミン谷の夏祭り
佳作	その日のまえにを読んで	出口美緒(2-7)	その日のまえに
佳作	変化を恐れない	松下大樹(1-1)	青くて痛くて脆い
佳作	何でもない幸せ	小田琴美(1-1)	世界から猫が消えたなら

防災避難訓練実施

10月16日(火)に五島消防署から3名の講師の方々にご来校いただき、防災避難訓練を行いました。調理実習室の火災を想定して、職員による通報訓練、及び職員・生徒による避難訓練を行いました。

消防署職員の方からは、「訓練に関しては言うこと無し」とお墨付きを頂きました。その後の講話では、災害発生時は、周りに流されるのではなく自分で判断して行動することの大切さを教わりました。最後に水消火器で消火訓練を行いました。

今回の訓練で得たことを教訓にして緊急事態に備え準備をしておきましょう。